

平成 30 年度
日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
(平成 29 年度事業)

平成 30 年 9 月
日野市郷土資料館

目次

1	はじめに	1
2	評価の目的	1
3	郷土資料館の現状	1
	（1）組織と職員	
	（2）主な業務	
4	評価の実施方法	2
5	評価の対象	2
6	評価の結果	2
	事業別 郷土資料館の運営状況の評価表	4～15

参考資料

I	平成 29 年度 日野市郷土資料館の活動状況	16～27
II	日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱	28
III	第 7 期日野市郷土資料館協議会委員名簿	29

1 はじめに

平成 15 年以降、「博物館の設置及び運営に関する基準」に基づき、郷土資料館は事業の水準の向上を図り、郷土資料館の目的を達成するため、自ら評価を行い郷土資料館協議会の御意見をいただき、その結果を公表するように努めてきております。

さらに、平成 20 年の「博物館法」の改正により、郷土資料館の運営状況に関する評価として、「博物館は、運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とされています。

これらを受け、郷土資料館では、平成 21 年 3 月、「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、郷土資料館の運営状況に関する評価を実施しております。

2 評価の目的

この評価は、郷土資料館の運営状況に関する情報を、積極的に公表することにより、郷土資料館の利用者や関係者との相互の理解を深めるとともに、連携・協力を図り、郷土資料館の事業を推進することを目的とするものです。

3 郷土資料館の現状

(1) 組織と職員

組織；1 館 1 係〔資料館係〕

職員；5 人〔館長 1、係長 1、主査 1（学芸員）、主任 2（学芸員）、用務主事 1〕

嘱託職員；3 人〔学芸員 2〕

臨時職員；1 人

(2) 主な業務

平成 17 年 4 月 1 日、ふるさと博物館から新たに生まれた日野市郷土資料館は、次の目的を達成することを目指して活動をしています。

- ① 歴史、民俗、自然等の資料の収集、保管及び展示に関する業務
- ② 資料の調査研究に関する業務
- ③ 資料の普及広報活動に関する業務
- ④ 学校教育や市民による自主的学習活動への支援の連携業務

4 評価の実施方法

郷土資料館では「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」に基づき、毎年1回、郷土資料館協議会へ運営状況についての自己評価を提出し、協議会の評価を併せて評価書としてまとめ、教育委員会へ報告いたします。その後、市民の皆様へ公表することとしています。

さらに、その評価の結果に基づき、今後の郷土資料館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるように努めていきます。今回、取り上げた11事業のほか、郷土資料館の全体にかかわる意見を付加しております。

5 評価の対象

平成29年度の評価対象は、次の11事業について行うこととしました。

- No.1 郷土資料館協議会の開催
- No.2 学校教育との連携事業
- No.3 企画展開催事業
- No.4 特別展「日野用水開削450周年記念特別展～日野人が守り育てた緑と清流～」の開催事業
- No.5 文化財緊急調査事業
- No.6 古文書等歴史資料の調査・整理事業およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業
- No.7 真慈悲寺調査事業
- No.8 「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信事業
- No.9 七生丘陵の自然と歴史調査事業
- No.10 たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業
- No.11 資料館講座・体験学習事業

6 評価の結果

平成30年度「日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価」の総括としては次の通りです。

No.1「郷土資料館協議会の開催」については、今までに出された協議会委員の業績を引き継ぎながら、新たな発想や意見を忌憚なく出し合い、円滑で創造的な郷土資料館事業を推進する。

No.2「学校教育との連携事業」は見学や出張授業の時には、民俗資料・文化財の大切さを話す機会となり、多くの利用がある小学校から評価されている。中学校のさらなる利用や、高校・大学、また地域との連携が課題となっている。

No.3 「企画展開催事業」は高幡不動駅通路のパネル展など館所在地の地理的不利を、館外展示・パネル展等で補っていることが評価できる。展示の宣伝手段や、解説内容・展示方法を改善する必要がある。

No.4 「特別展『日野用水開削 450 周年記念特別展 ～日野人が守り育てた緑と清流～』の開催事業」は大人にとっては、分かりやすい見ごたえのある展示であり、日野の歴史の根幹に取り組んだ企画だったなどと評価された。子供にわかりやすい展示のための工夫が必要である。

No.5 「文化財緊急調査事業」は文化財への緊急対応については評価された。重要な活動として、市民へ知らせるとともに、地域との連携し情報を早く入手し対応することが必要。

No.6 「古文書等歴史資料の調査・整理事業およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業」は膨大な古文書の件数のデータ化の必要性が急務とされ、調査整理作業の重要性が指摘された。また、行政資料の調査・収集および新たな市史編さん事業など課題となる。

No.7 「真慈悲寺調査事業」は、市民との協働事業の成果が評価され、小中学校向けのリーフレット・現地ガイドはなど子供対象事業が期待される。

No.8 「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信は、調査団の普及・啓発活動・追究意欲には感心させられる。記念碑の建立で一区切りとはなるが、さらなる発展が期待される。

No.9 「七生丘陵の自然と歴史調査事業」は、七生丘陵調査団結成 10 周年の成果のまとめを作ってもらいたいといった意見を得た。

No.10 「たきびの詩人『巽聖歌』啓発事業」は地道な取り組みが、地域の活性化・学校の創造的な授業につながり、今後の日野市のモデルパターンとなるのではないかと。

No.11 「資料館講座・体験学習事業」は座学と体験のセット講座は、今後も継続が望まれる。「どんど焼き」については、今後も市民や地域との連携・協力関係が大切である。

最後になったが「郷土資料館において何年にもおよぶ地域の方々との調査研究やさまざまな普及事業が継続されているということは、何よりも意義深いことのように思う。その根気強い調査事業によってこそ決して会うことのできない時代の人たちの思い、願い、知恵そして汗に私達は触れ合えるような気持ちになれる。」との意見をいただいている。

この命題を、郷土資料館の永遠のテーマとして、日野の自然・文化を市民の方々へ大いに語っていきたい。

評価対象となった各事業の自己評価及び郷土資料館協議会からいただいた評価及び意見は、4 ページ以降の評価表のとおりです。

郷土資料館の運営状況の評価表

<p>事業項目</p>	<p>No.1 郷土資料館協議会の開催</p>
<p>事業の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市郷土資料館協議会は、博物館法および日野市郷土資料館条例により位置づけられ、郷土資料館の運営に関して、館長の諮問に応じて意見を述べる機関である。 ・学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、並びに学識経験者、公募市民の10名で構成されており、年3回の会議を開催して意見を求めた。 ・「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」に従い、毎年資料館協議会の意見を聞きながら、事業評価を行っている。 ・平成30年3月4日～平成32年3月3日の任期で、第7期の委員を委嘱した。第6期の委員から6人が継続となり、専門の委員2名と市民公募委員2名が新たに委員となった。
<p>事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の受入等の手続きは、平成27年度の協議会で検討し定めた手順をもとに実施した。 ・当館の運営状況の評価について意見を求め、結果は教育委員会に提出した後、市民に公表した。 ・委員を通して、資料所蔵者の情報や地域の動き、市民の反応を知ることができた。 ・協議会委員から、展示・講座・調査などに関する情報、助言、協力をいただいた。
<p>協議会の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会委員の先輩方の業績を引き継ぎながら、新たな発想や意見を忌憚なく出し合い、円滑で創造的な郷土資料館事業を推進する。評価されたものは、生かせるものは、即生かしていきたい。また、長期的な展望をもつことも必要と考える。 ・日野は館の立地条件に恵まれていない中で優れた活動をしていると思っている。 ・昨年度の協議会で出された意見は有意義で良い案が多く、資料館の今後が楽しみになる様なアイデアもたくさんあった。一般市民として役立つ様な意見を出せたらと思う。 ・どのような資料館を目指しているのか、どのようなコンセプトで運営を行われているのかといったところを最初にご説明いただくと、それに向けての評価が行いやすいと思う。 ・大前提として今後とも現在の学校跡地を続けるのか、検討の柱としていく必要がある。特に資料の保管環境として地域の貴重な資料の未来への継承の任務は重い。温度、湿度、通風、防虫等不安が大きい。美術品の保管や展示施設についても考える必要がある。
<p>課題と改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は、第7期協議会委員の始まりの年である。当館からの情報提供を十分に行い、新たな発想や活発な意見を得て資料館活動に活かしたい。 ・資料館収蔵場所不足や保存環境については、重要課題であり協議会へ報告しながら進める。

事業項目	No.2 学校教育との連携事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の文化財を活用し、小中学生を中心に幼稚園、保育園及び教師を対象とした文化財の啓発事業を展開する。 ・社会科見学、出張授業、地域学習、職場体験など、ニーズに合わせた形式の中で「博学連携」を意識しながら内容を検討し実行する。 ・授業で使用する資料の相談を受け、アドバイス及び提案する。 ・当館で蓄積した画像データ資料などを提供し、ICT教育の教材として活用を図る。
事業の成果	<p><小学校の学習利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出は、「たぬきの糸車」糸車(1校)、農具[唐箕・千歯扱](1校)、剥ぎ取り標本(1校)。ほか、3年社会科見学[稲の脱穀体験等](8校)、地域学習(5校)、「昔の道具と暮らし」出張授業(10校)、「大昔の暮らしと火起こし体験」(1校)、郷土の人物及び災害についての話(3校)といった多様な利用がみられた。 ・昨年度と比較すると、稲の脱穀体験の安全かつ効率的に対応する事により、時間内に全員が体験でき、かつ構造及び歴史的背景の理解がより深まった。また、出張授業を教師と郷土資料館がともに創り上げる意識の向上がみられ、新たな資料の提案などを行う事により、教員の興味喚起及び理解を得つつある。 <p><中学校、幼稚園・保育園などの学習利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験(3校)、地域学習(2校)、特別支援学校(1校)。平成29年度は、特別支援学校や特別支援学級などの児童及び生徒の利用がみられたほか、わかば教室の利用も6回と大幅に増加した。
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・3・4年生が資料館に来館し、体験することはありがたい。 ・子どもを大切に、学校との連携を重視する。見学や出張授業の時は、必ず事前に担当教員と十分に打ち合わせる。当日の流れ、教員との役割分担、事前指導について共通理解を深めることで、学習効果が上がる。体験学習では、民俗資料・文化財の大切さを訴え、使い方、ルール・マナーについても指導する。 ・体験学習で使う道具類については、館で集積した資料を提供すべきだが、ものによっては新しいものを利用してよいと思う。向島用水の水車プロジェクトでは、籾摺り器を新たに製作して、収穫から脱穀・籾摺りまでを体験させることで、児童の学びを深めている。また、体験学習を行うに際しては、安全面を考えて、サポーターの育成も考えられる。 ・学校の要望に応えるために、どのようなプログラムが作れるのか検討が必要である。その中身によっては、中学校やその他一般への対応も可能となるかもしれない。データ資料や人員態勢を含めて簡易な内容のものも作っていった方がよい。学校教育にとらわれず、たとえば地域へ出ていく覚悟も必要ではないか。 ・中学校は、職場体験と地域学習での利用があるが、時間的に難しいところがある。資料館の近隣ではぜひ広めていきたい。 ・幼稚園・保育園、小中学校との連携があるが、高校・大学との連携もあるとよい。明星・帝京・中央大学が近くにあり、大学側もインターシップ受入れ先を探しているの、これらを活用して進めていくとよいのではないか。 ・日野には魅力的な素材がたくさんあるので、郷土資料館でそれらをアピールし、小さいうちから日野の歴史や文化、自然を身近に感じてもらうことがとても大切だと思う。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、出張授業で使用している資料については、生徒に見せたい道具を中心にセレクトしているため、必ずしも学習用資料だけで構成しているわけではない。児童にも「市内の小中学生たちみんなが使うものだから、大切にね。」と言っているが、出張授業で使う資料については、使用頻度と児童たちの好奇心が高いため、資料の消耗が激しい。 ・学習に使用する資料については、壊れることを前提に、消耗してもよい資料を学習用として選ぶ必要がある。そこで、当館所蔵の民俗資料の中から、学習用にふさわしい資料セットをあらかじめ作っておき、来年度からの体験授業セットとする。 ・大学の利用としては、博物館実習、博物館施設や地元の中世について調べるレポート等があったが、今後はさらに「どんど焼き」などで、地域の大学とも協力関係も築いていきたい。

事業項目	No.3 企画展開催事業
事業の概要	<p>〈郷土資料館企画展示室ほか館内展示〉</p> <p>① 巽聖歌と岩手県紫波町・日野市 会期 4月22日～7月9日</p> <p>② どつき土器展～七ツ塚遺跡を中心に～ 会期 7月15日～11月26日</p> <p>③ 七生丘陵～歩いて探した自然と歴史 会期12月2日～4月15日</p> <p>④ 資料館1階廊下展示…真慈悲寺、『稻生物怪録絵巻(いのものけるくえまき)』、郷土資料館のどんど焼き小屋作りのパネル展示</p> <p>〈館外展示〉</p> <p>平山季重まつりパネル展(平山小学校)、日野桑園第一蚕室(桑ハウス)公開資料展示(仲田の森蚕糸公園)、たきび祭でのパネル展(旭が丘中央公園)、「富士山と日野」パネル展(京王高幡SC高幡不動駅改札階通路)</p>
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館企画展など、館内展示で合計2,254人の観覧者があった。 ① 姉妹都市盟約締結記念展として「巽聖歌と岩手県紫波町・日野市」を開催。観覧者数は、476人。 ② 子どもも大人も楽しむをコンセプトとし、シンプルな説明とわかりやすい表現を心がけた。感想ノートや感想参加型展示「どつき！土器ポイント」においても、老若男女問わず、展示を通して七ツ塚の魅力を伝える事ができた。 ③ 七生丘陵の自然と、当館蔵の種子標本の展示を行った。日頃気づかない、地域の自然の豊かさや、種に見られるような、植物の持つ知恵の楽しさを伝えることができた。 ・館外の展示では、イベント会場来場者や通りがかりの人にも日野の魅力を伝えることができた。 ・パネル展示という簡易な方法で、館の内外部で様々なテーマでの展示を実施できた。
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・高幡不動駅通路のパネル展は好評である。テーマが、地域性・話題性のあるパネル展の時は、中央線日野駅の通路や金融機関のギャラリー、公共施設等の活用を検討し実施して欲しい。市民の関心が高いものについては巡回展も検討して欲しい。 ・館所在地の地理的不利を、館外展示・パネル展示等で補っていることが評価できる。種子の展示は、展示内容の工夫の一つ。安全や資料の保全などを考慮の上で、触れる展示にも一考を希望する。 ・どつき土器展を楽しんだ。展示案内によって、より深く楽しめた。ただ一人で見ただけでは理解が難しいかもしれない。知識のない人にもわかりやすい案内があると良いと思う。 ・通史展示やテーマ展示の部屋が欲しい。 ・夏休みは自由研究などにつなげて持ち帰れるような展示にしたらどうか。 ・群馬県立自然史博物館の企画展で「アキシマクジラ」の化石が展示され、新聞でも紹介されている。日野のゾウなどももっと宣伝して欲しい。 ・企画展については様々な工夫が行われ面白い展示となっているが、その他の常設展示(自然収蔵展示室、民俗収蔵展示室)については、もう少し改善できないか。 ・古くなっている展示のキャプションを新しく、わかり易くするだけでも印象が変わると思う。手書きでイラストが入ったキャプションや案内板などがあると、より明るい印象になる。学生ボランティアやインターンなどにつくってもらおう。 ・今置かれているものの中から、目玉となるもの、より紹介したいものに絞ってより詳しく展示することも一つの方法と考える。 ・駅から離れた丘陵地の上にあるということは、立地としては良い条件ではないが、逆にそれを活かすことも出来ると思う。例えば、資料館へのアクセスとして多摩動物公園駅から七生丘陵散策コースを通るルートや資料館周辺を回るルートなどを設定し、それに関連した展示を行うことで、道中で見られる自然や地形、文化的なものを資料館で学ぶ、地の利を生かした活動ができ、資料館と地域を繋ぐことができるのではないか。 ・展示物の写真と簡単な紹介だけでももっとHPに掲載すると実際の展示の様子が分かり、閲覧した方の興味をひくことが出来ると思う。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館の知名度を上げるために一般市民にPRする必要がある。 ・関心の高いテーマについては企画展期間中だけでなく、パネルやコーナー展示で常に見られるようにする。 ・子どもにも理解できるようにリーフレットなどで補う。 ・収蔵展示のレベルアップが必要。効率的に収蔵し見やすくするために、民俗収蔵展示室の壁面改装を準備している。

郷土資料館の運営状況の評価表

事業項目	No.4 特別展「日野用水開削450周年記念特別展～日野人が守り育てた緑と清流～」の開催事業
事業の概要	<p>会期:9月30日～12月3日 会場:新選組のふるさと歴史館にて開催した。 戦国時代の永禄10年(1567年)に開削されたといわれる日野用水は、平成29年(2017年)に450周年を迎えた。日野市ではこれを記念して「日野用水開削450周年記念事業」を行い、当館では、日野用水を中心に、市内を網の目のように流れる用水の歴史の変遷や用水が育む自然についての展示を開催した。また併せて、展示図録を作成した。 会期中の入館者数は3,186人、関連行事参加者は160人であった。 <関連事業> ①講演会「日野市域を流れる用水の謎～その開削時期を考える」 講師:渋江芳浩氏 ②見学会「JR日野駅直下のトンネルに潜る！日野煉瓦で造った山下堀アーチコルベルトに潜る」雨天のため地上見学会のみで実施 ③バス利用見学会「グルッと日野用水ひとまわり！」 ※子ども集まれ！よそ森堀で遊ぼう！～用水生き物探し～ 雨天中止</p>
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日野用水開削450年の根拠となる歴史資料を展示し、また日野用水開削以前の状況を示したことで、日野用水の開削によって日野宿を含む現在の市域半分ができあがり、「日野は多摩の米倉」といわれたその後の日野市発展の礎が築かれたことを周知できた。 ・見学会等で実際に用水沿いを歩いたり、用水にかけられた日野煉瓦造の甲武鉄道関連構築物に触れることで、日野の歴史と文化を肌で感じ、用水と共に歩んできた日野人の暮らしに思いを馳せることができた。これらを通して、用水が、日野人にとっての「大切な宝物」であることを市民に広く周知することができた。
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地味でも見ごたえのある展示だった。日野の歴史の根幹に取り組んだ企画だった。 ・大人にとっては、分かりやすい見ごたえのある展示であった。「多摩の米蔵」「嫁に行くなら日野に行け」のフレーズは、子どもも引き付けたが、子どもにとっては、難しい展示であった。市内の多くの学校が「用水」を教材として活用しているから、子ども向けの解説や絵・写真・模型等を工夫・多用して欲しい。特別展の図録「日野人が守り育てた 緑と清流」は、オールカラーで平易な文章で、市民から好評である。学校の教員も教材研究がしやすくなり大いに活用している。 ・地味な部分もあるかとは思いますが、地域所在資料の掘り起こしは郷土資料館にとって欠かせないものである。資料・記録として残すという意味合いも含め、図録の作成に意を注ぐ必要がある。 ・総合的な学習の時間など、学校教育と連携して、授業成果としての子どもの研究を展示してみてもよかったのではないかな。 ・課題として「子どもに分かりづらい展示となってしまった」とあるが、企画展・特別展とも来館者は大人から子どもまで(老若男女)を対象にしていると思う。子ども向けコーナーをはじめ、歴史好きの視点や女性の視点などそれぞれの立場の人に向けての展示があるとよかったのではないかな。 ・見学会のことを初めて知り、とても興味をひかれた。次回はぜひ参加したい。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに分かりづらい展示となってしまったので、次回からは絵を使用したり、子ども向け解説文など、見せ方を工夫し、小中学生が見てわかる展示を目指す。 ・用水については、水の都日野を象徴するキーワードとして、今後も講座や企画展・パネル展などで引き続き伝えていくものとする。

郷土資料館の運営状況の評価表

<p>事業項目</p>	<p>No.5 文化財緊急調査事業</p>
<p>事業の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代替わりや区画整理等の理由で処分する建築物及びそこに収蔵されているものについて、地域を語る有形の資料や無形の情報の収集、記録及び保存を行う。 ・市内の建築関係等の専門家との連携で、より深く専門性を持った調査活動を行う。
<p>事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・百草M家の蚕室及び条桑小屋調査、豊田Y家のガラス乾板を含む明治・大正期の写真63点の複写及び修正調査、西平山T家の旧撚糸工場〔建築物〕調査を行った。 ・文書資料及び民俗資料を収集し、現在記録中である。 ・画像が消える恐れのある写真を残す事ができた。 ・当館職員ならびに専門カメラマンによる写真撮影、建築関係の専門家による図面取り、民間研究者の協力による総合的な調査を行う事ができた。
<p>協議会の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財への緊急対応ができたことはすばらしい。今後は、さらに予算を増やし、専門家と連携し、情報収集し調査を実施する。残せないものは確実に記録保存する。そして、ミニ展示等で、市民へ知らせて欲しい。 ・郷土資料館の行う重要な活動である「文化財の保護」に該当する。 ・文化財にかかわる情報を資料館に提供するという自体、あまり市民に意識されていないのかもしれない。重要な活動なので、市民により広く知ってもらうため、HPなどで紹介してはどうか。 ・地元との情報のパイプ、フットワークの軽さ、相手先との関係性を大切に、地域の歴史を掘り起こすための最前線の作業といえる。限られた時間で円滑に行うためにも、職員に協力できる人材をリストアップしておく必要がある。
<p>課題と改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常にアンテナを張り、情報収集に努め、速やかな行動を行う必要がある。 ・収集後の速やかな記録及び保存を心がけ、資料の散逸を防ぎながら、収蔵する必要がある。 ・古い建築物に入る際には、高所作業や防塵などの安全対策に配慮する必要がある。

事業項目	No.6 古文書等歴史資料の調査・整理事業およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業
事業の概要	<p><調査・整理事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の古文書の整理、目録作成、補修、撮影を行ない、保存のための手段を講じる。 ・古文書を解読して、展示などに利用するほか、印刷物として刊行し、広く市民の利用に供する。 ・古文書を利用した講座や絵図を用いた見学会を開講し、古文書に対する市民の理解を深め、古文書を読み解く楽しみを広める。 ・古文書等歴史資料整理編集委員会を年3回開催し、委員の意見を参考にして上記の事業を行う。 <p><マイクロフィルムのデジタルデータ化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史編さん事業およびふるさと博物館において、古文書等歴史資料を撮影したマイクロフィルムをデジタルデータ化し、目録も合わせて電子化することで、パソコンを使って画像を検索利用できるようにする。 ・昭和46年から平成10年までに撮影され、郷土資料館が保管するマイクロフィルムは、35mmフィルムが358巻と、16mmフィルムが64巻ある(16mmフィルムは35mmフィルムの倍のコマ数がある)。現在は、マイクロフィルム専用読み取り機やその付属品は生産中止になっており、フィルムのままでは利用が困難であることと、年々フィルムの劣化が懸念されることから、デジタルデータへの変換が急務とされている。
事業の成果	<p><調査・整理事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄贈: 平山自治会青年団関係資料。 寄託: 日野I家(市史編さん時の目録223件の資料ほか)。 借用: 豊田Y家、下田O家、東光寺T家、ほかいずれも未調査のもの。 <p>このうち、借用中のY家およびO家の資料整理を17回実施し、日野の古文書を読む会研究部会のボランティア延べ84人が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊田旧名主家の資料の撮影を委託にて実施した。麦酒関係の帳簿類など、4,000コマをカラーでデジタル撮影した。この写真を元に解読を行い、次年度以降の事業に活用する。 ・郷土資料館史料集 第二集として『日野市域の八王子千人同心関係史料集』を刊行した。史料集刊行のため、日野の古文書を読む会研究部会が解読と編集会議を53回行い、ボランティア延べ435人の参加があった。 ・虫損の被害が甚大な貴重資料「平山村改正反別帳」の裏打ち修復を委託にて実施した。予算の都合で40丁分の裏打ちを終え、残り3分の2は平成30年度以降に実施する予定である。 ・古文書等歴史資料整理編集委員会を6・11・3月の3回開催した。委員の意見から、行政資料の保存について、先進的な事例のある調布市へ職員が出向き調査を行うなど、有意義な話し合いがもたれた。 <p><マイクロフィルムのデジタルデータ化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度は、南平・平穰家文書など約23,000コマ分(46巻)をデジタルデータ化し、あわせて電子検索性目録を作成した。 ・平成19年度の事業開始から11年目を迎え、残る35mmフィルムは28巻、16mmフィルムは64巻となった。フィルム全体の約74%のデータ化が完了した。 ・展示のための資料選択や講座の教材として使用したほか、市民や他の博物館からの問合せへの回答等に利用された。郷土資料館が事業を行うにあたって、デジタルデータの保存と活用は不可欠である。

協議会の意見

- ・資料館業務の苦勞、貴重でありながら困難であることなど、市民として全く理解していなかった。
- ・古文書の膨大な件数に驚く。また、調査・整理・解読に膨大な時間を要することも分かった。今後さらに多くの古文書が発見されるであろう。市民への理解と協力のもと、円滑に作業を進めて欲しい。また、緊急調査が予算化され、専門家や業者へ委託の道が開けたことはうれしい。専門の学芸員の増員も必要と考える。
- ・郷土資料館の活動として展示やイベント等が目につきやすいが、古文書等、文化財の保護が重要な役割の一つである。特に区画整理や代替わりで散逸してしまうのではないかと、個人蔵の資料の現状が不安である。寄贈寄託をすすめる必要がある。前回の市史編さんでは、江戸時代のものが中心だったので、明治・大正・昭和のものが散逸してしまう恐れがある。
- ・前回の市史編さんの成果を今後引き継いでいくために、縁の下の力持ち的仕事であるが、今のようなデータ化をしておかないとなくなってしまう。データ化作業には積極的に予算をとってもらいたい。
- ・新しい日野市史の予定はないのか。周りの市町村の動きから、日野市も新しい市史を編む時期に来ていると思う。
- ・公文書や行政刊行物などの行政資料はますます重要になってきている。資料館として、行政資料の調査・収集に関して方針を定めてはいかがだろうか。

課題と改善策

<調査・整理事業>

- ・今後も、他部署や市民と連携をとりながら、区画整理や住宅の建て替えなどで散逸が心配される古文書を緊急に保護できるようにする。資料保存の大切さを訴えるとともに、古文書の調査や整理は、経験のある人材や資料の保管場所を必要とするものであることを、多くの市民に理解してもらえるような活動をしていく。
- ・文化財緊急調査のための予算があることで、専門家への依頼の道が開けるなど、博物館活動の幅が広がったので、今後も拡充させていきたい。
- ・今後も継続して、解読した古文書を順次、史料集として刊行していく。
- ・行政資料の調査・収集は、市役所内の関連部署と連絡をとりながら進めていく。他市の状況を調査をするなど今後の方針を定めるための情報収集を行う。

<マイクロフィルムのデジタルデータ化>

- ・年々少しずつ予算を増額しているが、今後もフィルムの状態が少しでも良い内にデジタルデータ化を完了できるように努める。
- ・現行のOS(Windows7)から新しいOSに移行させるために必要な準備をしていかなければならない時期にきている。その際には、これまでに見つかったデータの不備や不具合についても改善する必要がある。

事業項目	No.7 真慈悲寺調査事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・中世の大寺院「真慈悲寺」を中心に、百草・倉沢地区の歴史と文化について、市民協働での調査、研究を行い、広く周知する。 ・9月17日には東京文化財ウィークと連動して百草八幡神社の阿弥陀如来坐像が公開され、同時に第12回現地イベントにて、講演会「国指定重要文化財阿弥陀如来坐像」を開催した。 ・2月6日～13日には京王百草園まつりにて「百草倉沢地区歴史パネル展－真慈悲寺・八幡神社・百草観音堂・百草園を中心に－」を実施した。真慈悲寺に限らず地域の歴史にも光をあて、特に梅とゆかりの深い寿昌院に光をあてて市内外の方に解説ガイドを実施した。DVD「百草に慈岳山松連寺を開基した小田原藩大久保家夫人寿昌院」を制作した。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティアによる自主的な調査研究のまとめ『幻の真慈悲寺を追い求めて』vol.2を刊行した。真慈悲寺の歴史を100年遡らせる資料「念誦法」の解説は、新出資料の提示という点で研究者からも耳目を集める内容であり、今後の調査研究にはずみをつける貴重な研究である。また、その他百草八幡神社に伝わる木造「津戸明神」や「絵馬」の研究などが、市民の手で報告されており、他に類をみない生涯学習活動の成果といえよう(A4判228ページ)。 ・調査・普及活動としては、恒例となった現地イベントと京王梅まつりでパネル展示と解説ガイドを実施した。ボランティアが対面で地域史を語り好評を得ている。2つの行事の一般参加とボランティア合わせて482人が参加した。 ・梅まつりでは市外からの来園者が多く、不特定多数の方に真慈悲寺や地域の歴史について理解してもらう非常に良い機会となっている。「梅の名所」にこのような深い歴史があったことに驚いているという感想が多く寄せられている。 ・館内廊下にて「百草・倉沢地区歴史パネル展」を実施した。
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとに深い歴史があるということは、なにか心の支えになる気がする。子どもたちに知ってもらうことが大切だと思う。 ・市民との協働活動の成果が出ている。 ・寺の全体像をとらえるもう一息の努力に期待する。 ・展示だけではなく、現地で文化財を前にして語るができるのが本事業。小中学校向けの出張解説、リーフレット、DVD、現地ガイドは是非実現して欲しい。学校へPRすること、真慈悲寺の歴史的価値を伝えて欲しい。また、鎌倉や落川遺跡等の周辺地域との関わりを追究し、成果を発表し公開して欲しい。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、あらゆる機会・手段をできる限り利用して、これまでの成果を普及するための努力をする。 ・小中学校向けの出張解説や簡易なリーフレットや教育用DVDの作成、子ども向け現地ガイドなどを計画する。 ・真慈悲寺が果たした役割をより鮮明にしていくために関戸方面へも調査を進める。

事業項目	No.8 「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に残る生まれ変わり伝承の調査・研究・普及事業を、市民参加の調査団を結成し行う。 ・総会・例会・公開講演会・記念日イベント・出張展示・出張講座・調査活動・その他の活動を行ない、延べ30回、調査団参加者255人、一般参加者376人、総参加者631人。 ・普及・啓蒙活動—公開講演会(5月21日 多田仁一氏—中央大学特任教授—「人々とともにある「怪異」」・夏休み子ども講座(7月22日 探検！高幡不動尊と勝五郎生まれ変わり物語)・第9回藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日イベント(10月7日 吉田麻子氏—相模女子大学・学習院女子大学・東海大学講師—「交響する死者・生者・神々—平田篤胤の世界」など。 ・調査・研究事業—勝五郎の妹常の一家の追跡調査(今まで可能性としてきた常の一家の函館移住をほぼ確実と出来るところまで、調査が進んだ。関連調査として、明治期に多摩地域から北海道(函館周辺)に移住した人々の調査(三鷹吉野家文書の調査等)を行なった。 ・平成29年度は、勝五郎没後150年(平成31年度)記念事業の一環として、記念碑建立事業に着手、調査団としては初めての自主事業として行なった。 ・なお、記念碑建立の目的は、普及・啓蒙活動を今後も長く継続していく足掛かりとしたいというもので、明治期に、勝五郎の妹常が兄の顕彰碑を建立したいという意向があったにも関わらず実現しなかったので、「ゆかりの地記念碑」という形を変えたものではあるが、その思いを実現させたいという思いも含まれている。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の参加人数が、昨年と比べて半減しているのは、小学校の朝礼での普及事業がなかったため、活動自体が低調だったわけではない。 ・今年度は、活動の8割ほどを記念碑建立事業に割り、建立場所(高幡不動尊)の選定・許可交渉、記念碑碑文・案内板の内容等の検討、趣意書の作成、寄附金集めなどの事業を行なった。年度は渡るが平成30年5月20日に除幕式を行ない、無事記念碑を建立することが出来た。勝五郎没後150回記念という位置付けとした。事業は当初の計画より1年前倒しで遂行した。 案内板には、英文の解説も加えた。同じ高幡不動尊墓地にある藤蔵墓所の案内リーフレットの配布数が年間5,000枚ほどになるので、記念碑にも普及リーフレットが配布できるポストを設けていて、今後のさらなる普及啓蒙活動へのきっかけとなることが期待される。 ・地方からの問い合わせ、報告書・ブックレットの購入、調査団以外の方々が、それぞれの活動場所で普及活動を行なって下さることがあるなど、少しずつではあるが、調査団の活動の広がりを感じさせられる動きが見える。勝五郎頃の絵巻を描いてグループ展に出展した画家もいた。
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・調査団の普及・啓蒙活動・追究意欲には感心させられる。記念碑の建立で一区切りと思うが、さらに発展させて欲しい。その成果を第3弾の特別展で発表して欲しい。調査団の高齢化対策として、広報で呼びかけたり、中央大学・明星大学にも働きかけメンバーの若返りを図って欲しい。 ・神田神保町にある岩波書店刊行書籍を多く取り扱う書店に、同文庫の『仙境異聞 勝五郎再生記聞』が増刷ということで山積みになっていた。「勝五郎生まれ変わり物語」展の影響があるだろう。 ・勝五郎グッズを作れないか。 ・真慈悲寺も勝五郎も市民との協働活動の成果である。 ・新選組と勝五郎は、郷土日野の2大特色となるだろう。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・調査団発足から13年目となり、調査団の主力メンバーは高齢化しており、病気・家族の介護また死去などで、活動から離れていくメンバーも出てきている。 ・活動をどのように継続していくか、世代交代をどのように行うか、記念碑の維持・管理・普及活動をどのように行っていくか、調査研究をさらに進展させるためにどうしたらよいかなどを、検討し、よりよいあり方を探っていかなければならない。今後も工夫努力を続けていく所存である。

事業項目	No.9 七生丘陵の自然と歴史調査事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・七生地域を中心に、自然と暮らしの結びつきや地域の歴史などをテーマに調査を行い、展示や見学会などを開催し、地域の魅力を伝えていく。 ・「七生丘陵調査団」の市民メンバーで丹念に地域を歩き、積極的な活動を行った。 ・企画展では調査団がかつて収集した種子資料を展示した。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・七生丘陵調査団が資料館と連携して調査を行なってきた。市民目線で、調査や発見の面白さや魅力を実感をもって伝えることができた。自然班、歴史班とそれぞれのもつ興味で班を分けての活動もあった。生涯学習の機会の提供ともなった。調査団員の活動は、延べ302人。 ・丘陵散策コースを中心に動植物の写真を撮影し記録した ・京王線高幡不動SC南北自由通路において、パネル展「富士山と日野」を開催した(2,050人)。 ・体験講座「地図と景観を楽しむ～百草地域を歩こう」(3月24日、一般参加者15人) 午前の講義の講師は今尾恵介氏、午後の散策の講師は調査団。
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・七生丘陵調査団結成10周年の成果をパネル展で再展示をする。七生丘陵ハイキングコースは市民の散歩道である。表示・解説板・トイレの設置等の整備を検討して欲しい。 ・多摩では自然系の学芸員を置く館が少なく、期待している。 ・関心があるものの、参加の都合が合わず残念である。 ・これまでの成果のまとめを是非作ってもらいたい。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、長期的に調査情報を蓄積し、公開や利用を考えた上での基礎データの整理作業に時間をあてる。調査団の10周年を迎える平成31年に向け、調査成果まとめたものを市民が活用できるようにする。 ・七生丘陵調査団のメンバーがもつ能力を生かし、見学会や勉強会などで広く市民へと伝えていく。 ・「富士山と日野」パネル展の内容を冊子化し、図書館に配架することや、パネルの再展示の機会をつくり、成果の有効活用を図る。 ・調査団の参加者数が減少傾向にある。活動内容の見直しや新規メンバーの呼びかけなども検討し、事業維持のために役員構成を考慮するなど分担の見直しを図る。

事業項目	No.10 たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市で後半生を過した詩人・児童文学者の巽聖歌について、日野市に寄贈された資料の調査・研究・保存を図るとともに、巽聖歌とその作品についての普及活動を行なうことを目的としている。 ・平成10年に、旭が丘にあった自宅の取り壊しに伴って預かった資料を基に、地元旭が丘で結成された「たきび会—巽聖歌を讃える会」とたきび祭の実行団体である「旭が丘商工連合会」などと共に、調査・研究・普及・啓蒙事業を展開してきた。 ・平成11年たきび詩碑建立(たきび会)、平成17年生誕百年記念展(日野市郷土資料館)、平成18年たきび祭(旭が丘商工連合会)、平成22年豊田駅発着メロディーを童謡「たきび」とする、平成23年「童謡たき火70年記念展」(日野市郷土資料館)、平成24年「新美南吉生誕百年記念展」(同)などのほか、毎年12月行なわれる「たきび祭」前夜祭として「巽聖歌朗読と歌の集い」を郷土資料館主催で開催し、普及活動を行なって来た。 ・巽聖歌のふるさと岩手県紫波町、新美南吉の出身地愛知県半田市、童謡たきびの舞台となった中野区上高田の鈴木家などと交流を行ない、これらの市民交流の成果として平成29年1月には、岩手県紫波町と日野市が姉妹都市盟約を締結した。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度は、姉妹都市盟約締結記念展「巽聖歌と岩手県紫波町・日野市」(4月22日～7月9日)を開催した。観覧者数は、476人。たきび会など旭が丘関係者、遺族関係者のほか、鈴木三重吉の孫鈴木潤吉氏が来館し、関係資料の寄贈を受けた。 ・7～9月には、郷土資料館の依頼により、シティセールス推進課によって動画「童謡たきびの作詩者巽聖歌と紫波町・日野市」が作成され、構成・資料提供・ナレーションの文案などに協力した(12分5秒)。8月には、市民ボランティア1名の協力を得て、未整理の巽聖歌資料の集中整理を実施した(7日間)。 ・8～12月、日野第六小学校4年生の学習用に巽聖歌関係パネルを貸出し、担当教諭は8月に紫波町に調査に行った。 ・9月、『赤い鳥』100年記念事業(2018年度)にむけて「赤い鳥連絡会」が結成され、郷土資料館もメンバーに加わることとなった(『赤い鳥事典』の日野市郷土資料館の項目執筆)。 ・9月14・15日には、日野第四中学校の職場体験の一環として、巽聖歌資料の整理をした。 ・10月21日紫波町で行なわれた第14回巽聖歌童謡祭りに、たきび会・旭が丘商工連の人々とともに、郷土資料館も参加した。また、11月11・12日には、産業まつりに合わせて日野を訪問した紫波町議会議員団に、たきび詩碑などの案内を行なった。 ・12月8・9日、第12回たきび祭実施。8日の前夜祭で、「鈴木三重吉と赤い鳥」をテーマに鈴木潤吉氏が講演し、紫波町から内城弘隆氏が参加した(参加者653人)。 ・平成30年3月20日、日野市郷土資料館ブックレット2として『たきびの詩人 巽聖歌』を刊行した。 ・4月1日開館の旭が丘地区センター内に出来た「巽聖歌コーナー」用パネルを設置した。4月1日にオープニング記念として、パネル展を開催、野村家にある聖歌の妻野村千春の絵画も展示した。新地区センターには、第六小学校4年生の学習成果パネル展もあり、1日には、学習成果の発表会も行なわれた。
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県紫波町との交流を発展させて欲しい。市民・小中学生・行政が交流を深め、お互いのまちの歴史・自然・文化・産業を学び合いたい。旭が丘地区センターがパネル展示や学習した小学生の発表会場となったことは素晴らしい。わかりやすい安価なブックレットが刊行されたことは、市民・学校への普及・啓発に大いに役に立つ。地道な取り組みが、地域の活性化・学校の創造的な授業につながり、今後の日野市のモデルパターンとなるのではないか。資料の整理・公開等は、中学生の職場体験・大学生の学芸員実習等も活用し進めたい。 ・地域在住作家の顕彰として成果を上げたものと思う。文学館活動の性格まで併せ持つのは負担が大きくなるかもしれないが、欠かせないものでもあるので何とか工夫を。 ・京王線沿線の住民には、認知度が低いように感じる。 ・姉妹都市にまで、よくつなげてきたと感心する。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・紫波町との姉妹都市盟約を結んだことで、巽聖歌を紹介する機会は格段に多くなり、展示・動画の作成、ブックレットの刊行と目に見える成果を示すことが出来、関心を持ってくれる市民も増え、何より旭が丘小学校・日野第六小学校など、教育の現場で巽聖歌を取り上げ学習してくれるという展開に発展したことは、とてもよかったと思う。 ・ただ、膨大な巽聖歌関係資料の整理はまだ終わっておらず、資料の整理、保管、公開をどのように行なっていくかということが今後の重要な課題といえる。 ・岩手県紫波町との交流の発展について、関係各課とともに、市内全域への普及活動に努めたいと考えている。

事業項目	No.11 資料館講座・体験学習事業
事業の概要	<p>・企画展「どつき土器展」の関連講座として小学生を対象にした「火起こしと勾玉作りの講座」や「七ツ塚遺跡」を題材とした座学と現地見学会を行った。また古文書の解読をしてみたいという市民の学習ニーズに答えるための「古文書講座」(テーマは地誌・紀行文)、丘陵地域の郷土の歴史や自然を体験して学ぶ機会を提供する体験講座「地図と景観を楽しむ～百草地域を歩こう～」や古い農具を使った体験講座、伝統行事である「どんど焼き」、「化石でたどる大昔の日野」や「石田散葉を作ろう」(新選組のふるさと歴史館と共催)といった体験学習会を通して、日野の自然や歴史・文化を学ぶ機会を提供した。</p>
事業の成果	<p>・「七ツ塚遺跡を深掘り！」は座学で概略を学んだあとで、実際の古墳や遺跡の範囲などを歩いて確認し、より理解が深まったと好評であった。</p> <p>・毎年恒例の「古文書講座」では初めて、外国人の参加者があった(全6回延べ137人、市内在住の外国人2人を含む)、資料館に寄託されている「武蔵名勝図会稿本」を教材に活用でき有意義だった。</p> <p>・「石田散葉を作ろう」は大人の部と子どもの部と分けたことで、子どもが体験しやすくなった。</p> <p>・「火起こしと勾玉作りの講座」展示で土器などの本物を見ることでコツをつかんだり、工夫したりと、五感を使って昔の人々の生活と技について体感してもらうことで楽しみながら地域の歴史に触れる事ができた。</p> <p>・正月飾り作りや、地域に密着したどんど焼き等の講座・イベントの実施により日野の郷土に残る文化、風習の伝承を図ることができた。</p> <p>・「どんど焼き」は、近隣の学校、市民有志、他課の協力を得て開催できた。</p> <p>・講師の指導があってこそ、ゾウの足跡化石や、火山灰など気づきにくいものを観察することができた。</p>
協議会の意見	<p>・特別展等関連の座学と体験講座は大変な人気である。学んだことを現場で確かめてみる、読めなかった古文書が読めるようになった等、大人が大満足である。この座学と体験のセット講座は、今後継続して欲しい。</p> <p>・「どんど焼き」については、今後も市民や地域との連携・協力関係が大切である。市内各地の「どんど焼き」も同様な悩みがある。農具体験もそうだが、後継者の育成と、担当職員も技術や操作を身に付けることが必要と考える。</p> <p>・成果や好評を得ている部分と思うが、生涯学習としての調査研究活動や学校教育と連携した体験学習などとの関連を図る。</p> <p>・化石の体験ははじめて参加したが、とても良い企画であった。より回数を増やすとか、テーマを変えるとか、取り組んでもらいたい。他地域との化石の違いなどで位置づけていただきたい。</p> <p>・どんど焼きはたくさんの方が参加でき楽しい。是非継続して欲しい。</p>
課題と改善策	<p>・「火起こし」の学校への出張授業は利用が減ってきているので、むしろ土器展に際しての恒例事業として、勾玉作り等と併せて行うとよい</p> <p>・定番の講座の継続と新企画を検討する。</p> <p>・どんど焼を継続するためには材料の見直し、やぐら作りの担い手と技術継承体制を整える必要がある。</p> <p>・農具体験のための修繕部品の入れ替えで済むというものでもない。すべてを知っていない人が修理することも難しい面がある。職員は実際の農具体験の経験がないので、経験者から、道具の使い方を学び、持ち方や動きを記録する必要がある。</p> <p>・石田散葉作りは、ミヅバ採集の場に制約があり、事業の組み立てについて見直す必要がある。</p> <p>・外国人やまったくの初心者が「古文書講座」へ参加した場合の対応や講義方法の見直し。</p> <p>・子ども参加の事業の開催日を学校のスケジュールを考慮して設定する必要がある。</p> <p>・受講者の安全を考え、使用する道具、開催時期など、十分に配慮する必要がある。</p>

<参考資料>

I 平成29年度 日野市郷土資料館の活動状況

1 郷土資料館協議会

日野市郷土資料館協議会は、博物館法に基づき、資料館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。また、日野市郷土資料館条例に、協議会委員は教育委員会が任命し、委員の定数は10名以内となっている。なお、委員の任期は2年となっている。

(1) 協議会委員名簿 第6期委員

氏名	主な活動分野
◎杉浦 忠機	社会教育の関係者（自然環境体験指導）
○小杉 博司	学識経験者（郷土教育研究）
上野 さだ子	学識経験者（歴史・古文書研究）
秋山 譲児(29年3月31日まで)	学校教育の関係者（平山中学校校長）
須藤 昭人(29年4月1日より)	学校教育の関係者（七生中学校校長）
池田 泰章	学校教育の関係者（仲田小学校校長）
平 自由	社会教育の関係者（博物館学・考古学）
畠山 豊	社会教育の関係者（博物館学・民俗学）
保坂 一房	学識経験者（多摩の地域史研究）
都 美里	公募市民
山口 久夫	公募市民

◎委員長 ○副委員長 任期 平成28年3月4日～平成30年3月3日

(2) 開催状況

開催日	会場	協議内容
7月13日	郷土資料館	1 はじめに ①協議会委員の紹介について ②職員紹介 2 報告事項 平成29年度事業の進捗状況と今後の予定について 3 協議事項 ①平成28年度事業評価について ②平成30年度の事業計画について（特別展示等）

開催日	会場	協議内容
11月10日	市役所	1 報告事項 ①平成 28 年度事業評価について ②平成 29 年度事業の進捗状況と今後の予定について 2 協議事項 平成 30 年度の事業計画について（特別展示等） 3 見学 日野用水開削 450 周年記念特別展～日野人が守り育てた 緑と清流～
2月22日	郷土資料館	1 はじめに 第 6 期日野市郷土資料館協議会委員任期の終了および第 7 期について 2 報告事項 平成 29 年度事業の進捗状況と今後の予定について 3 協議事項 平成 30 年度の事業計画について 4 企画展示案内 七生丘陵 ～歩いて探した自然と歴史～

2 古文書等歴史資料整理編集委員会

日野市古文書等歴史資料整理編集委員会は、市民の教養、学術及び文化の向上を図ることを目的に、古文書等歴史資料を調査するため設置されている。

委員会の委員は、古文書等歴史資料に対して優れた見識を有する者の内から教育委員会が選任し、定数は6名以内、任期は2年となっている。

(1) 委員名簿

第10期委員

氏名	専門分野
清水 守男	近現代史
安藤 陽子	近代史
鈴木 淳世	近世史
多田 仁一	近世史
馬場 憲一	近世史
保坂 一房	近現代史

任期 平成29年2月1日～平成31年1月31日

(2) 開催状況

開催日	会場	協議内容
6月20日	郷土資料館	1 平成 29 年度の資料調査事業について 2 平成 29 年度進行中の資料調査報告 ①豊田山口家文書の調査について ②下田生沼家文書の資料調査について ③その他 3 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 4 その他
11月28日	郷土資料館	1 平成 29 年度進行中の資料調査報告 ①豊田山口家文書の調査について ②下田生沼家文書の資料調査について ③その他 2 日野市行政関係資料の保存と整理について 3 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 4 その他
3月13日	郷土資料館	1 平成29年度進行中の資料調査報告 ①豊田山口家文書の調査について ②下田生沼家文書の資料調査について ③その他 2 「調布市行政関係資料保存の現状調査」報告 3 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 4 その他

3 展示事業

(1) 企画展示

企画展名	展示期間	観覧者数
姉妹都市盟約締結記念展～異聖歌と岩手県紫波町・日野市～	4. 22～7. 9	521
どつき土器展～七ツ塚遺跡を中心に～	7. 15～11. 26	1, 045
七生丘陵～歩いて探した自然と歴史～	12. 2～4. 15	688
『百草の歴史を楽しむ』パネル展	4 月～7. 14	—
『稲生物怪録絵巻 (いのうものけろくえまき)』パネル展	7. 15～9 月	—
『日野の水車』パネル展	9. 7～12. 17	—
『どんど焼き』パネル展	1. 5～4 月	—
合 計		2, 254

(2) 施設見学

① 学校等

月 日	学校名等	対 象	内 容	人 数
6. 8	わかば教室	—	展示見学	10
6. 15	わかば教室	—	展示見学	10
6. 22	三沢中学校	2年	職場体験	5
6. 23	三沢中学校	2年	職場体験	5
6. 27	仲田小学校	3年	社会科見学、農具体験	63
6. 29	わかば教室	—	展示見学	7
7. 11	南多摩中等教育学校	1年	校外学習	7
7. 14	三沢中学校	1年	総合学習（下見）	14
9. 7	平山中学校	2年	職場体験	3
9. 8	平山中学校	2年	職場体験	3
9. 13	わかば教室	—	水鉄砲作り	26
9. 14	日野第四中学校	2年	職場体験	3
9. 15	日野第四中学校	2年	職場体験	3
10. 13	豊田小学校	3年	社会科見学、農具体験	134
10. 13	三沢中学校	1年	総合学習（地域学習）	30
10. 27	平山小学校	3年	社会科見学	91
11. 1	日野第三中学校	2年	職場体験	3
11. 2	日野第三中学校	2年	職場体験	3
11. 8	日野第八小学校	たちばな学級	展示見学、農具体験	20
11. 24	東光寺小学校	3年	社会科見学、農具体験	60
12. 12	日野第三小学校	3年	社会科見学、農具体験	72
2. 6	日野第一中学校	1年	総合学習（地域学習）	24
2. 8	日野第四小学校	3年	社会科見学、農具体験	133
2. 21	潤徳小学校	3年	展示見学、農具体験	115
3. 6	旭が丘小学校	3年	社会科見学	108
3. 13	わかば教室	—	展示見学	31
3. 14	七生特別支援学校高等部	2年	展示見学、地域学習	35
3. 15	わかば教室	—	展示見学	15
合 計		28 件		1,033

② 団体

月 日	団体名	内 容	人 数
5. 5	デイサービス介護隊	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	5
7. 7	デイサービスライズ	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	4
7. 17	デイサービスふれあい	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	6
7. 28	デイサービスふれあい	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	7
8. 12	デイサービス猫の手	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	7
8. 16	デイサービスふれあい	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	7
8. 19	デイサービス猫の手	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	11
合 計	7 件		47

(3) 特別展「日野用水開削 450 周年記念特別展～日野人が守り育てた
緑と清流～」

① 観覧者数

会 期	会 場	観覧者数
9. 30 ～ 12. 3	新選組のふるさと歴史館	3,186

② 特別展関連行事

月 日	名 称	人 数
10. 6	記念式典	51
10. 28	講演会「日野市域を流れる用水の謎～その開削時期を考える」 講師：渋江芳浩氏	77
11. 23	見学会 「JR日野駅直下のトンネルに潜る！日野煉瓦で造った山下堀 アーチコルベルトに潜る」 (雨天のため周辺の見学会のみ)	15
11. 25	バス利用見学会「グルッと日野用水ひとまわり！」	17
合 計	4 回	160

4 イベントについて

事業名	月 日	会 場	一般参加数	スタッフ 人数	計
たきび祭（前夜祭ほか）	12. 8・9	旭が丘中央 公園	649	4	653
どんど焼き	1. 13	郷土資料館	954	6	960
合 計	2 件				1,613

5 教育普及事業

(1) 体験学習会

① 自然に触れる体験学習会

月日	内容	講師	会場	人数
3.17	化石でたどる大昔の日野	松川正樹氏 西田尚央氏	多摩川河川敷	16

② 農業体験講座(公民館との共催事業)

月日	内容	会場	人数
5.13~8.26	「親子でスイカを作ろう」5回	南平耕作地	144
7.29~1.20	「親子で大豆を育てて豆腐を作ろう」5回	南平耕作地・公民館高幡台分室	65
合計	10回		209

③ その他

月日	内容	講師	会場	人数
7.29	石田散菓を作ろう①ミゾソバ採集	郷土資料館	土方歳三資料館 向島用水	14
8.25	夏休み子ども講座「夏休みの宿題、これでおわりにしよう！勾玉作り&火起こし体験」	郷土資料館	郷土資料館	13
8.26	石田散菓を作ろう②石田散菓作り	郷土資料館	郷土資料館	34
12.16	お正月飾りを作ろう	わらざうり 保存会	郷土資料館	26
3.3	火起こし体験	郷土資料館	郷土資料館	4
合計	5回			91

※石田散菓を作ろう：新選組のふるさと歴史館との共催事業。

(2) 講座

月日	内容	講師	会場	人数
10.14	「七ツ塚遺跡を深掘り！」第1回座学	上野さだ子氏 中島光世氏	郷土資料館	32
11.4	「七ツ塚遺跡を深掘り！」第2回見学会	上野さだ子氏 中島光世氏	現地(東光 寺地区)	23
1.21	郷土資料館講座 古文書に親しむ 第1回	上野さだ子氏	郷土資料館	25
1.28	郷土資料館講座 古文書に親しむ 第2回	上野さだ子氏	郷土資料館	23
2.4	郷土資料館講座 古文書に親しむ 第3回	上野さだ子氏	郷土資料館	22
2.18	郷土資料館講座 古文書に親しむ 第4回	大窪俊彦氏	郷土資料館	22

月 日	内 容	講 師	会 場	人 数
3. 4	郷土資料館講座 古文書に親しむ 第5回	大窪俊彦氏	郷土資料館	23
3. 11	郷土資料館講座 古文書に親しむ 第6回	大窪俊彦氏	郷土資料館	22
3. 24	体験講座「地図と景観を楽しむ～百草地域を歩こう～」	今尾恵介氏 七生丘陵調査団	郷土資料館 百草地域	15
合 計	9回			207

※調査事業による講座については、各事業欄に記載。

(3) 出張事業（展示及び講師派遣）

① 学校等へ出張授業

月 日	学校名	対 象	内 容	人 数
5. 16	日野第三小学校	6 年	火起こし体験	54
6. 21	豊田小学校	5 年	地域を知ろう	125
6. 21	日野第八小学校	教職員	地域学習ポイント	38
10. 4	平山小学校	6 年	平山季重について	75
10. 12	滝合小学校	3 年	用水について(市役所見学中に説明)	72
10. 21	滝合小学校	4 年	総合学習 (防災)	79
10. 25	日野第六小学校	5 年	脱穀体験	148
11. 16	日野第一小学校	5 年	特別展見学 (新選組のふるさと歴史館)	71
11. 28	夢が丘小学校	3 年	理科の授業	33
11. 30	日野第七小学校	教職員	特別展見学 (新選組のふるさと歴史館)	20
12. 1	南平小学校	3 年	特別展見学 (新選組のふるさと歴史館)	77
12. 1	日野第七小学校	4 年	特別展見学 (新選組のふるさと歴史館)	103
1. 19	日野第一小学校	3 年	昔の道具	60
1. 24	豊田小学校	3 年	昔の道具	133
1. 25	潤徳小学校	3 年	昔の道具	108
1. 26	仲田小学校	3 年	昔の道具	67
1. 27	平山小学校	3 年	昔の道具	144
1. 31	七生緑小学校	3 年	昔の道具	77
2. 1	日野第五小学校	3 年	昔の道具	118
2. 2	南平小学校	3 年	昔の道具	80
2. 16	日野第八小学校	3 年	昔の道具	106
3. 7	七生緑小学校	3 年	昔の道具	77
3. 16	夢が丘小学校	3 年	昔の道具	55
合 計			23 件	1,920

※調査事業関連の出張授業は各事業欄に記載。

② その他

月日	内容	会場	人数
10.15	平山季重まつりパネル展	平山小学校	2,500
11.11・12	桑ハウス公開時の資料展示(産業まつり)	仲田の森蚕糸公園	1,530
合計	2件		4,030

※調査事業関連の出張授業は各事業欄に記載。

(4) レファレンス事業

項目	件数
電話・Eメール・手紙などで寄せられた質問に対する調査回答	110

6 所蔵資料活用事業

(1) 資料のデータ化事業

項目	内容
マイクロフィルムのデジタルデータ化及び目録作成作業	23,000 コマ

(2) 資料の貸出事業

貸出先	資料	目的
府中市郷土の森博物館	武蔵名勝図会	特別展「徳川御殿@府中」
滝合小学校	糸車	1年 国語「たぬきの糸車」
滝合小学校	千歯こき、唐箕	5年 総合
日野第七小学校	地層はぎとり標本	6年 理科
日野第六小学校	巽聖歌パネル	5年 社会科
日野第八小学校(保護者)	わらうち機	ふるさと八小ふれあい祭り わらぞうりづくり準備
中央図書館	豊田駅周辺写真	図書館行事展示
七生支所	多摩平写真日記パネル	七生支所内展示
生涯学習課	養蚕関係資料一式	桑ハウス公開に伴う展示
件数	9	

(3) 資料の撮影・閲覧 概要

資料内容	目的
実物資料の閲覧（富士山起絵図、クジラ化石ほか）	博物館展示、調査研究
写真の提供（武蔵名勝図会、高幡不動胎内文書、市域の古写真、古文書資料）	地域イベント・博物館・銀行展示、記念誌・研究書・新聞・市史、自治会報掲載、テレビ番組放映、調査研究ほか
件数	28

7 資料収集保存・調査事業

(1) 資料収集保存事業

項目	内容	件数等
資料寄贈	寄贈（平山青年団資料、市内風景写真、軍事郵便ほか）	7件
資料購入	武蔵国百草村松連禅寺之図	1点
標本作製	鳥類はく製（アオゲラ）製作	1点
収集資料の整備ほか	民具の補修、農具体験及び脱穀体験の補助及び民具整理補助（44回）	111人
資料修復	「平山村田畑反別其外取調野帳」（452～1054番）	1点

(2) 調査事業

① 幻の真慈悲寺調査事業

区分	事業名	内容	回数	人数
普及	現地イベント	特別講演「百草八幡神社所蔵 国指定重要文化財銅造阿弥陀如来坐像について」講師：浅井和春氏	1	108
		『百草・倉沢地区歴史野外パネル展』～真慈悲寺・八幡神社・百草観音堂・百草園を中心に～パネル展準備・解説ガイド	1	39
	パネル展示ほか	梅まつりパネル展「『百草の歴史を楽しむ』～中世の大寺院真慈悲寺と江戸時代の慈岳山松連寺～」(2.6～2.13)	1	310
		梅まつりパネル展解説ガイド(2.6～2.13)	8	25
		「中世の大寺院真慈悲寺」パネル展示 場所：中央図書館（3回展示替え） (7.22～8.8, 9.2～10.16)	3	6
		真慈悲寺調査センター訪問者への解説	1	20

区分	事業名	内容	回数	人数
調査 研究	調査	東京電力総合研修センター内実踏	2	13
	研究	研究会	37	338
		資料整理	15	48
		刊行物等編集	10	56
環境整備	その他	真慈悲寺調査研究センター整備・看板設置 DVD制作・総会	4	35
自主活動	真慈悲寺ボランティア 自主活動	真慈悲寺調査ボランティアの自主活動(歴史散策)	4	45
刊行物の 発行等	印刷	「幻の真慈悲寺を追い求めて」vol.2 300部 真慈悲寺解説リーフレット改訂版 3,000部		
	DVD制作	「百草に慈岳山松連寺を開基した小田原藩大久保家夫人寿昌院」		
	国際交流	「国際交流員の日野市体験日記」において真慈悲寺と活動を紹介		
合計			87	1,043

② 勝五郎生まれ変わり物語調査事業

項目	内容	人数
例会	毎月第二水曜日午後 (13回)	177
総会	5.21	17
公開講演会	5.21 講座『人々とともにある「怪異」』 講師：多田仁一氏 会場：郷土資料館	36
展示・講座	7.14 日野第四小学校ひのっち	38
	7.23 夏休み子ども講座	60
	10.23 中央大学ホームカミングディ	—
記念行事	10.7 第9回藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日講演会 「交響する死者・生者・神々ー平田篤胤の世界」 講師：吉田麻子氏 会場：高幡不動尊	239
調査活動	函館関係(大火・山岸家の家族)	4
	都立中央図書館	1
	三鷹市吉野家文書	4
	都立多摩図書館	1
	北海道立文書館	1
	町田市自由民権資料館	1
その他の活動	記念碑建立関係ほか	52
刊行物の発行	生まれ変わり物語の主人公 ほどくぼ小僧「勝五郎」の前世 藤蔵の墓 リーフレット 3,000部	
合計		631

③ 七生丘陵調査事業

内 容	回 数	人 数
定例会（11回）・総会（1回）・総会準備会（1回）	13	106
七生丘陵の屋外観察記録や資料整理活動	31	147
パネル展「富士山と日野」（1.19～2.13） 会場：京王線高幡不動 SC 南北自由連絡通路	1	2,050
パネル展「富士山と日野」（京王線高幡不動 SC 南北自由連絡通路） の設置・撤去作業と点検巡回（1.19～2.13）	29	38
夢が丘小学校 3年 出張授業講師（11.28）	1	3
体験講座「地図と景観を楽しむ～百草地域を歩こう」（3.24） 午前講義 講師：今尾恵介氏、 午後散策 講師：調査団	1	15
「地図と景観を楽しむ～百草地域を歩こう」調査団案内（3.24）	1	8
合 計	77	2,367

④ 古文書調査事業

ア 日野の古文書を読む会との協働

内 容	回 数	人 数
古文書整理（豊田 山口家文書・下田 生沼家文書）	17	84
古文書の解説（日野の千人同心関係史料）	41	399
編集会議（日野の千人同心関係史料）	12	36
合 計	70	519

イ その他の調査事業

松本家の講関係資料の調査・河野家文書追加調査・生沼家調査・立川家調査・豊田山口家文書のデジタル撮影4,000コマなど。

⑤ 異聖歌関連事業

内 容	部数など
ブックレット2『たきびの詩人 異聖歌』刊行	2,000部（A5判）
『異聖歌』リーフレットの増刷	1,000部（A4判）
旭が丘地区センターパネル展示	パネル3枚（B1判）
『異聖歌』のDVD作成	1本

⑥ その他

項 目	内 容
文化財緊急調査	ガラス乾板・西平山撚糸工場調査等
行政資料保存事業調査	調布市の行政資料保存事業の実態調査

8 東京都博物館協議会・東京都三多摩公立博物館協議会

(1) 東京都博物館協議会

① 第1回総会及び第1回見学研修会

平成29年(2017年)6月28日

会場：日本科学未来館(総会・研修会)

船の科学館(見学会)

研修会 テーマ：『「初代南極観測船“宗谷”の保存と移転～博物館における大型展示物～」』

②第2回総会及び第2回見学研修会

平成30年(2018年)2月22日

会場：東京海洋大学品川キャンパス(総会)

東京海洋大学マリンサイエンスミュージアム(見学会)

研修会 テーマ「東京海洋大学江戸前ESD協議会の活動について―地域連携を目指す大学博物館ESDの試み―」

(2) 東京都三多摩公立博物館協議会

①定期総会

平成29年5月30日 会場：八王子市東浅川保健福祉センター

②協議会

平成29年11月30日 会場：東村山ふるさと歴史館

③研修会

第1回 平成29年(2017年)9月22日

会場：コニカミノルタサイエンスドーム(八王子市こども科学館)

第2回 平成29年(2017年)12月13日 会場：都立多摩図書館

第3回 平成30年(2018年)2月22日 会場：町田市立博物館

<参考資料>

II 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日制定

(目的)

第1条 この要綱は、博物館法（昭和26年法律第285号）第9条の規定する、日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市郷土資料館（以下「資料館」という。）は、毎年1回、資料館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 資料館は、資料館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 資料館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 資料館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 資料館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、資料館資料館係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、資料館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する

<参考資料>

Ⅲ 第7期日野市郷土資料館協議会委員名簿

番号	氏名	備考	期
1	小杉博司 (委員長)	社会教育の関係者 (郷土教育研究)	3
2	平 自由 (副委員長)	社会教育の関係者 (博物館学・考古学)	2
3	畠山 豊	社会教育の関係者 (博物館学・民俗学)	2
4	保坂一房	学識経験者 (多摩の地域史研究)	2
5	佐藤福子	学識経験者 (歴史・古文書研究)	1
6	片山 敦	学識経験者 (生物・環境教育)	1
7	池田泰章	学校教育の関係者 (仲田小学校校長) (任期 平成30年3月31日まで)	3
	猿田恵一	学校教育の関係者 (旭が丘小学校校長) (任期 平成30年4月1日から)	1
8	須藤昭人	学校教育の関係者 (七生中学校校長) (任期 平成30年3月31日まで)	2
	宮原延郎	学校教育の関係者 (日野第三中学校校長) (任期 平成30年4月1日から)	1
9	中村高志	公募市民	1
10	西山千絵	公募市民	1

任期 平成30年3月4日～平成32年3月3日

平成30年度日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
(平成29年度事業)

平成30年9月

日 野 市 郷 土 資 料 館

〒191-0042

東京都日野市程久保550番地

電話 042-592-0981

FAX 042-594-1915